

第15回「母から子への手紙」コンテスト

準大賞 岡田美佐さん(大阪府)

たとえば、あなたが五才の時。傘を持たず遊びに行かせてしまったことを託びた私に「だいじょうぶ。あめをよけて、はしってきたから。」と誇らしげに笑ってたよね。家の中にいた虫を小さな手のひらに包んでは、
「おそとでくらしてくうだあさあい。」と窓からそっと逃がしてたよね。
中学生になった今も、基本姿勢は驚くほどそのまんま。つい先日もあるあなたの友達の家族から、理不尽とも取れるような話があったけど。喧嘩したくてうずうずしている私をなだめるかのように。
「何もいわなくていいよ。大丈夫やから。」って、ちよつと一体どっちが親なの。
どうやら私は間違ってたみたい。思春期って極めて難しい時代と想像していたけど、あなたのそれは実に優しいものとして仕上がってるね。あなたがあなたのままで居られるように私にできることは『余計なことほししない』をすることだと肝に銘じておきますね。

大賞 初澤みゆきさん(栃木県)

「俺は、吃音で、二十四年間ずっと苦しんできたんだ。」今年の4月、お前の二十四歳の誕生日を目前にして、そう言われた時、頭が真っ白になった。生まれてから、ずっとお前!お前の産声は、高らかに、伸びやかに、母さんの耳に、確かに届いていたんだよ。
一体、どこで間違ったのだろう!家族の前では、人一倍お喋りで、自己主張もしっかりするし、数日前に行った家電量販店では、大胆に価格交渉もして、大型テレビを見事に安く手に入れたのに。
とりあえず、今は聴くしかない……。そう思っ、二十四年間の苦しみを黙って聴かせてもらった。簡単に、氣休めなんか言っちゃいけない。これは真剣勝負だと思ったよ。
話の最後、お前が「俺は、何としても二十代で、俺の中で絡まっているものを解きたいんだ。」と締めくくった時、あっ、この子は大丈夫だ!!と思った。根拠はない。でも、これは、産んだ者にしか分からない確信だ。



八子実行委員長から賞状を受ける初澤さん(右)

Pick Up

今月のイベント

「母から子への手紙」コンテスト表彰式

第15回「母から子への手紙」コンテストの表彰式は12月4日、学びいなで行われ、大賞を受賞した初澤みゆきさん(栃木県)らに表彰状や記念品などが贈られ、受賞をたたえました。

「母から子への手紙」コンテストは、本町出身の医学者、野口英世博士の母シカが、渡米中の野口博士に宛てて書いた手紙にちなみ、母と子の絆を感じてもらおうと、平成14年から実施されており、毎年全国各地からわが子への愛情をつづった多くの手紙が寄せられています。

今回は、全国から1423点の応募があり、一次選考会では町内のお母さん75人が入賞50作品を選出しました。

最終選考会では、芥川賞作家で福聚寺住職の玄侑宗久さん、元NHKアナウンサーで春日居郷土館・小川正子記念館名誉館長の末利光さん、エッセイストの大石邦子さん、一次選考委員代表(猪苗代町お母さん委員長)の小林光子さんの4人が厳正に審査し、大賞、準大賞、日本郵便賞などの各賞を決定しました。表彰式後には、末利光さんが「母から子への手紙文学」と題し、講演しました。

今月号では、大賞などを受賞した4人の作品を紹介します。(原文のまま)

15周年記念賞 佐々木キヨさん(鹿児島県)

オカンは九十八になったよ。百近くまで命を授けて下さるお天とう様に感謝しながらも、あの世の道は遠かりきと念じるオカンです。貴方が二年前、急な病で六十三才で他界してから、オカンはたった一人の命づなを失い、生きる希望も、力も、長生きする意味もわからなくなっていましたよ。
今は、「ゆりの郷」というグループホームで、皆さんに大事にされながら、お見舞いに来て下さる親戚や子や孫に励まされ、支えられて、命を全うしようと前向きに努めています。
貞進、見えなくても美しい花を供えるよ。
食べなくてもおいしい物を供えるよ。
返事をしてくれなくても語り続けるよ。
世の習わしと知りつつも、帰り来ぬわが息子を見送った母心。あきらめきれないつらさ、はかなさを、青空眺め海を眺めてまぎらす。
一度でいい、「オカンご飯!!」と呼んだあの声が聞きたい。いつも貴方の冥福を祈りながら、楽しかった日々を思いうかべて暮らしますね。

日本郵便賞 永末祐子さん(福岡県)

コブクロの「風見鶏」という歌を聴くと、思い出します。小さなあなたが、空を見上げたので、その視線の先を追うと、風見鶏がいました。
公園の屋根の上に、直立不動の風見鶏。
他の子供達が、すべり台や、ままごと、夢中になっているのに、あなたは、しばらくの間、それを眺めていました。
そして、土をはうカナヘビを追ひ、花を歩くてんとう虫を見つめ、木の幹に、へばりついたセミの抜け殻を、手に取りました。ついに、裸足になり、駆け出しました。
あなたは、自然と仲良しでした。ありふれた景色を、色とりどりの景色に変えてくれましたね。
あれから十数年。十七歳になりましたね。
私は、歌を聴きながら、心の中で、あの日の風見鶏に、話しかけます。
「道に迷っています。どうぞ、息子の道しるべをして下さい。」と。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報猪苗代

Jan.2017
1
No.675

今月の表紙



【撮影日】12月9日
【場所】中の沢保育所

中の沢保育所の子どもたちは12月9日、お正月前の恒例行事「餅つき」を行いました。子どもたちは「ヨイショ、ヨイショ」の元気な掛け声に合わせて、上手に餅をつきました。

Contents — 【目次】

- 02 年頭のごあいさつ
- 04 Pick up
- 05 第15回「母から子への手紙」コンテスト
- 06 まちのわだい
- 08 笑顔でこんにちは／スクールトピックス
- 09 新しい民生委員・児童委員の皆さんを紹介します
- 10 いなわしろタウンページ
- 14 暮らしの情報広場
- 16 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー